

# 体育授業における生徒の安全意識の向上にむけて

学籍番号 (199353)

氏名 (宮部未登)

主指導教員 (鉄口宗弘)

## 1. 実習での課題

本研究は、大学時代の教育実習において体育授業における安全の確保が課題となったことから、「安全」をテーマとして取り組んできた。すなわち筆者の大学時代の教育実習では、水泳の授業および研究授業を行なった。研究授業では、管理職・その他の教職員の方々に安全面の配慮が欠けているというご指摘を受けた。特に、筆者の教えたいという思いから個人指導に没頭してしまい、他の生徒の動きや安全を確保できていない状態であった。加えて、個人指導をしている際に、全体が把握できる場所で個人指導するのではなく、全体に背を向けて指導していたことをご指摘していただいた。これらの課題が判明したことから、本研究では体育授業での安全の確保を行うためにはどのようにすべきかを研究したいという考えに至った。

## 2. 基本学校実習

### 2.1 基本学校実習Ⅰ

基本学校実習Ⅰでは見学に徹した。見学では、先行研究の指標を用いて分析を行なった。分析では、実習校の体育授業の実態を把握することができた。また、実習校の協力の下、過去2年分の外科的処置数を調査した。実習校における過去2年分の外科的処置数は、擦過傷、打撲、筋肉痛の順で多いことが認められた。加えて、基本学校実習Ⅰにおいては、授業内で運動量を減らさずに生徒の安全意識を高めるためにはどうすればいいかが課題となった。実習校の現状を踏まえて、生徒の安全意識を高めるための方法について考えていくことが基本学校実習Ⅱでの目的となった。

### 2.2 基本学校実習Ⅱ

問診調査と体育での生徒の運動量を減らさずに安全意識を高める方法の模索に取り組んだ。

問診調査は先行研究で用いられたアンケートを使用した。今回の調査対象が中学校段階であり、小学校と高等学校の間であるため、善悪の判断・事故対応力・規範行動性の3点に絞って検討した。結果としては、全体的に良い数値を記録した。

体育授業において生徒の運動量を減らさずに安全意識を高める方法では、従来の実習校の体育授業展開から、種目に沿った準備運動を行うことが必要であると考えた。よって研究期間では学校独自の体操を行なったのちに種目に沿った準備運動をし、そのあとに主運動という展開で実施していく。今回の研究期間に限っては種目に沿った準備運動を導入し、生徒の安全意識の向上に努めていきたいと考えた。

### 3. 発展課題実習

#### 3.1 発展課題実習Ⅰ

種目に沿った準備運動を実施し、最終的な目標は、生徒たちが自分たちに必要な準備運動が何かを考え、準備運動自体を考案することである。そして準備運動を考案する過程を含めて、考案すること自体が生徒の安全意識の向上につながると考えた。生徒たちが考案した準備運動は、下肢に関する準備運動が比較的多く認められた。また、上肢の準備運動でも肩や肘・指を柔軟するものが多く、イラストや言葉で表現し、その目的まで記述できているグループが多かった。よって、グループごとの話し合い活動は円滑に進み、準備運動の開発が可能となった。

種目に沿った準備運動終了後に準備運動感想シートという調査を行なった。この調査は種目に沿った準備運動を経験してみて、生徒がどのように感じたかを記録するために実施した。肯定的な意見が大多数を占めていた。肯定的な回答として、自分たちで考えてできたという言葉がよく出てきていた。今回の種目に沿った準備運動を用いて生徒の安全意識の向上を目指していたため、生徒の回答からも考察したように安全について考えることができていた。

#### 3.2 発展課題実習Ⅱ

実習校においてマット運動では種目に沿った準備運動に近いメニューがあった。そのため、マット運動でのマットの配置を生徒たち自身で考え、生徒たち自身で安全を確保することで生徒の安全意識の向上につなげることを考えた。そのために座学において、マットの配置を考案してもらった。マット8枚を縦に均等に並べるというものが多かった。紹介した配置図は少し変わった方法や配置図のものである。マット運動の試技方向等は生徒に指示していないにもかかわらず、8名が試技方向も描くことができていた。これはより安全を意識できていた結果であったと考えている。考案した中から実際に5組の授業でのマットの配置を選定し、マットの授業で試行した。すべての授業終了後にマットの配置についてのアンケートを行なった。研究（マット運動）に関するアンケートは考えたマットの配置で実施してみた感想を調査するために行なった。筆者が指定したマットの位置が壁に近いと感じたことを感想シートに記載した生徒がいたことから、この取り組みを通して安全意識が高まる可能性が示唆された。

### 4. まとめと今後の課題

#### 4.1 まとめ

バレーボールでの種目に沿った準備運動を生徒に考案させることとマット運動でのマットの配置を考案させたことによって、生徒自身が主体的に安全を考え、活動に取り組むことで安全意識は高まりが示唆された。生徒への記述式のアンケートからもうかがうことができた。

#### 4.2 今後の課題

生徒の安全意識の向上を生徒へのワークシートや記述式のアンケートで示唆できた。しかし記述式のアンケートでは文脈からは推測することはできるが、生徒の意図とのズレが生じやすいと考えた。そのため、数値による客観的なデータと生徒の記述した内容を組み合わせること、より正確なデータが得られるのではないかと考えた。